

「同居人？家族？お父さん？」

社団法人家庭問題情報センター 竹前 ルリ

小学校四年生の息子が反抗的になって困っている、四十代の母親・友子さんが相談に訪れました。去年までは成績も良く、友達もたくさんいて、問題はなかったのに、急に先生にも反抗的な態度をとるようになったそうです。
しかし、友子さんの話を聞く限り、子どもがなぜ突然それほど変わったのか、理由がはっきりしませんでした。

友（友子） 今まで言ったこともない「うるせえ」「ばばあ」などと私に言います。学校でも勝手な行動をしたり、わざと宿題を

忘れたり、急に態度が悪くなったので、先生から相談に行くよう勧められたのです。

カ（カウンセラー） お母さんと悠樹君のお二人暮らしでしたよね、お父さんは？

友 悠樹が一歳半の時に離婚しました。ほんとうに子どもで責任のとれない人だったのです。

それ以来私一人であの子を育てました。保育園に預けて、会社の経理の仕事で頑張りました。実家は遠くて助けを求められませんでした。今は会社を辞めて、近所の飲食店を夜だけ手伝っています。昼間あの子の帰る時間家にてやれるので。

カ 貴女が出かける夜の時間、悠樹君はどう過ごされるのですか。

友 実は……まだ申し上げていませんでしたが、付き合っている人がいて、昨年から同居しているのです。それで私は夕飯を作っ

て出かけ、悠樹は彼と一緒に過ごしているのです。

彼は悠樹のことをとても心配して、今日も一緒に来て外で待つてくれています。悠樹はとてもなついていて、彼がいてくれることを喜んでいようです。

カ そうでしたか。それでしたら、ここへ連れていらしてください。ご一緒に話をするのが一番良いと思いますよ。

カウンセラーはこの男性の存在が、悠樹君の反抗と関係があるかもしれないと思い、また、彼の協力が重要だと考えました。友子さんはロビーにいた山田和也さんを連れてきました。五十歳くらいの温厚そうな人です。

和（和也） 初めまして。正式に結婚してない私が余計な口出しをしてはいけなにかと思います、外で待たせてもらっています。

カ 今伺ったのですが、悠樹君も含めて三人と一緒に暮しておられるのですね。

和 はい、そうです。
カ それで悠樹君のことはどう思っていますか。

和 可愛いと思っています。賢い子で、友だちも多くて、親分肌みたいところがあって、見どころのある子です。

友 悠樹の方も、長いこと父親がいなかった
ものですから、この人が来たことを喜んで
いるふうです。

和 男同士であまりしゃべらないのですが、
夜は寂しいらしくて、いつの間にか私のそ
ばにすり寄ってきて、膝枕して寝転がって
テレビを見ているんです。

力 では、悠樹君が何か悪いことをしたとき
には、誰が叱るのですか。

友 それなんですけど、私はこの人に叱って
ほしいのです。でも彼は私に遠慮している
のか、叱ってくれないのです。

和 私が叱るといじめているように思われな
いか心配なのです。

力 なるほど。でも、お二人は結婚届けは出
していないけど、これからも実質的に夫婦
として、そして悠樹君をお二人の子どもと
してずっと一緒に暮されるおつもりなの
でしょう？

友 はい、私はそのつもりです。

力 和也さん、貴方はいかがですか。

和 はい、私もそれを心から望んでいます。
でも、この家に転がり込んだ身としては、
遠慮があつて、彼女にその気持ちをはつき
りまだ伝えられませんでした。

力 それを伺って安心しました。お二人とも
悠樹君を含めて家族としてお互いを大切
に思っているのですね。

カウンセラーが問かけると、二人は同時
に頷き、「はいそうです」と声を揃えました。
まるで結婚式の誓いのようでした。

力 では伺いますが、和也さんのことを悠樹
君は何と呼んでいるのですか。

友 実は(笑)……私が彼をカズと呼び捨て
にするので、悠樹もカズと呼ぶのです。

力 それは良くありませんね。今日帰ったら、
悠樹君にこう伝えてください。悠樹君には
まだはつきり言っていないかったけれど、私
たちの家に和也さんも家族として一緒に
住んでもらおうと思う。それで、目上の立
派な大人を子どもが呼び捨てにするのは
間違っていると相談室で注意されたので、
悠樹君にどんな呼び方が良いか、考えても
らいたい。悠樹君の決めた呼び方で呼ぶこ
とにしましょうと。

そして和也さん、子どもを叱ることはい
じめではありません。悪いことをしたとき
に、きちんと叱ることは、間違いを犯す危
険から子どもを守ってやることなのです。
怒鳴ったりはせずに、人に迷惑をかけるの
は、いけないことだと教えなければなりま
せん。友子さんが望んでいるのだから、し
つけに協力してあげてください。

また、友子さん、和也さんを夫とし、父
親として子育てに協力して欲しいなら、一

家の主人として敬意を払う必要があります。
す。よろしいですか。

一週間後、友子さんが相談室に見えました。

友 先生、あれから不思議なことに悠樹の反
抗はぴたりと治まりました。

あの日帰ってから悠樹に先生に言われた
ことを伝えて、何と呼ぶか尋ねましたら、
お父さんというのは恥ずかしかつたよう
で、山田さんと呼ぶことになりました。そ
れから和也さんも父親らしくなって、悠樹
が無理な要求をすると、きちんと叱ってく
れるようになりました。

二人とも、お互い、どう付き合ったらい
いのか分からなかったのですね。

悠樹も大人になっていくときに、父親の
力が必要になるでしょう。私一人が
頑張るのではなく、和也さんを父親と
して三人で良い家族になっていこう
と思います。

友子さんは幸せそうに微笑んでいま
した。

